

## 平成29年度第1回城端地域審議会会議録

- 1 開催日時 平成29年11月 6日(月)午後6時30分から午後8時30分まで
- 2 開催場所 南砺市城端庁舎 3階 大ホール
- 3 出席委員 11名 松本久介、坂井 隆、水口 耐子、谷崎 猛、中田勝治、今川 修、朝日勝彦、上田憲仁、山下克雄、田辺章子、税光詩子  
欠席委員 2名 山本みゆき、水上成雄
- 4 市側出席者 田中市長、斉藤市長政策部長、上口市長政策部次長、吉澤市民協働部長、市川南砺で暮らしません課長、石崎行革・施設管理課長、樋口城端行政センター長、山下行革推進係長、野村副主幹、岩滝城端行政センター次長
- 5 傍聴者 6名
- 6 協議議題

### (1) 庁舎機能再編について

## 7 会議経過

### ○委嘱書の交付

センター長より委員氏名を読み上げ、市長より委嘱書を各委員へ交付。

### ○開会及び会議成立の報告

事務局(センター長)から開会と本審議会の成立の報告を行う。

### ○会長・副会長の選出

事務局の腹案とおり、会長に松本久介氏、副会長に山下克雄氏を選出。

### ○会長挨拶

審議会が3年延びた。公募委員はなかった。任期は3年。本日は庁舎再編について審議をおこなう。皆さんの協力をお願いする。

### ○市長挨拶

審議会について説明。3年間ご意見を賜りたい。新市街づくり計画では合併から10年は合併特例債を発行し街づくりを進めていくとしていたが、東日本大震災や進捗が遅く5年間延びた。その中で審議会も延長し、審議していただくこととなった。総合計画、地方創生の総合戦略も平成31年度までの15年間に集約されている。井波、利賀のスキー場閉鎖等、大きな問題を審議していただく委員会と理解していただきたい。

庁舎再編について説明。取り敢えず15年間は分庁舎方式とするが、その後どうするか。平成27年度にアンケートを実施した。一年前から4庁舎利用の4パターンと新庁舎の5パターンについて各地域審議会でも審議いただいた。市民の利便性、行財政の無駄を含めて議論してきた。平成28年度から本格的に議会とも議論を深めてきた。既存施設を有効利用することは議会と一致。当局側としては初期投資を抑え、比較的新しい福光庁舎が適当とし、時期は平成31年度末と考えている。既存庁舎の在り方について今後2年間に地域の問題も含めて答えを出したい。時間を引きずるのは良くないと考えている。行政センター機能を充実したもので残していきたい。

○協議議題

松本会長が議長となり、順次議事を進める。

- (議長) 議題(1) 庁舎機能再編についての説明を求める。  
(上口担当部長より配布資料の確認、続いて資料に基づき説明を行う。)
- (議長) 議題(1)の質疑を求める。
- (委員) 当面は福野・福光の2庁舎で。既存施設でも未利用施設の取壊しも行われていない。跡地利用も並行して考えていくべき。早急に平成31年度末と決めるのはいかがなものか。福光に統合するとしても用地買収、国道拡幅等課題を時間内で解決出来るのか。また、新たに土地を求めるのは無駄である。現在でも地域包括があるので実質5庁舎と同じである。福光庁舎となると、朝の通勤時に渋滞が懸念される。
- (委員) 本日のスケジュールについて。
- (議長) MAX8時30分。
- (委員) 人口も減っていく中、2庁舎の後、1庁舎という悠長なことは言っていないのではないか。すぐに1庁舎とするべき。福光庁舎でよい。
- (委員) 福光庁舎にしても年数は経っている。50年後、60年後を見据えた計画をするべき。福光では交通事故がおきることが懸念される。田んぼの真ん中でもよい。場所的には、梅野、鍛冶あたりが良いと思う。国道が広がると事故が起き易い。
- (委員) 福野地域等は公共施設の敷地は借地が多いと聞いている。これを機に解消して欲しい。併せて人口対策も考えてほしい。
- (委員) 通勤時の交通渋滞等について、市職員も積極的になんバス等を利用し、また、時刻表もそれなりに工夫すれば解消できるのではないかと。既存施設も庁舎に取り込んで使い易い施設にすればよいのではないかと。今後、人口が減っていく中、今は手狭でも将来の適当な広さを考えると、福光1庁舎でもよいのではないかと。
- (委員) 人口が減っていく中、人口減を前提に議論を組み立てていただきたい。1つの庁舎で充分ではないかと。福光庁舎でよい。賑わい創出と言葉は綺麗だが、簡単なことではない。現実を見つめて対策をしてほしい。
- (委員) 高齢者の中には外に出られない方もいる。高齢者のことも考えて議論を進めてほしい。施設再編はされているのか。
- (市長) 行政センター機能をどうするか、統合庁舎にいかなくとも行政センターで手続できるよう考えていかなければならない。行政センターの在り方も一緒に考えていく。
- (上口担当部長) 施設再編の進捗率は4.5%。交渉にははいっている。
- (委員) 福光に決めたということで説明をされていると理解すれば良いのか。
- (市長) 地域審議会の意見、明日の意見交換会の意見を以て、再度議会と相談して進めていく。
- (委員) 福光ありきで「皆さんの意見はありますか」というふうに聞こえるが。
- (市長) 当局では福光がベストと考えるが、押しつけるものではない。地域審議会

で意見をいただくというスタンスでいる。

(委員) 議会が議会がと言われても福光ありきとしか聞き取れない。初期投資というが、将来的に60年間のコストを自分なりに試算してみたが、殆ど変わらない。初期投資は確かに押えることは出来るが、人口が減っていく中で将来に禍根を残すことになる可能性が大きい。議論には時間をかける必要はあるが、1庁舎にすることは早い方がよい。初期投資を話されると当局のいうとおりだが、人口減少、使い勝手等、将来を見据えたことを思うと試算からも新庁舎でもかまわない。が、今の話の流れからすると福光庁舎ありきとしか聞こえない。

(委員) 振興会の会議の資料では「既存の庁舎」となっていたが、この資料では「既存の施設」になっている。時間をかけて考えるべき。議会に混乱を招いたおおきな責任があると思う。何の結論も出ていないところで何故、福光庁舎なのか。ゆっくりと時間をかけて議論をするべき。

(委員) 新庁舎建設の考えだったが、コスト面から既存庁舎を利用することには異論はない。市民の利便性を考え、統合庁舎再編にペースを上げて取り組んでほしい。もう一点、コストは後々追加の無いようよく検討して欲しい。

(委員) 資料「市長の考え②」のまちづくり面について、南砺市になっても南砺市民という意識が低い。未だに旧町村名がでる。庁舎再編を機会に南砺市で良かったという思いに繋がるまちづくりをしてほしい。

(委員) 行政センター機能を残すというが、山間部では地理上、必要と考えるが、平野部では行政機能をもったセンターは必要なのか。窓口は必要だが、現状でも城端庁舎へ来られない方はいる。必要とあれば福光庁舎へ行く。窓口業務は必要だが、行政機能をもったセンターは不用と考える。

(委員) 地域の細かいことでも相談に行きやすい行政センターとして残していただきたい。

(委員) 行政センターの在り方が示されない。地域振興の職員を残す、残さない、人口減に見合った職員数、それに伴い財政はどうなるのか、それらも示されない。城端庁舎の跡地についても何時どうなるのか問題が一つ一つ、解決されないまま、平成31年度に統合はありえない。この場で結論を出すのではなく、慎重な議論を重ねた上で、市議会に判断を委ねることとしたい。

(議長) その他 (1) 南砺市型小規模多機能自治の推進について報告を求める。  
(吉澤部長より資料に基づき報告を行う。)

(議長) その他の質疑を求める。

(委員) 出席委員質疑なし。

(議長) 降壇挨拶

(副会長) 閉会挨拶

○閉会

事務局(センター長)から閉会の宣言をする。